

に し だ 昭 二 県 政 通 信



盛夏号
No.17

県議会議長の代わりに
議事進行にあたる西田副議長



議長代理で祝辞する
西田副議長



中村議長と定例会見に
て



地元の活動も
精力的な西田副議長

皆さん、こんにちは、石川県議会議員の西田昭二です。今年の4月には皆さん方に大変大きなお支えをいただき、無事、3度目の選挙を無投票で当選することができました。心から感謝を申し上げるところでございます。また、石川県議会において第108代目の副議長の職を拝命することが出来、身に余る光栄であります。今後とも 中村議長を支えながら 県勢発展のため、務めてまいりたいと思っております。**今春には**、県民の願いでありました北陸新幹線金沢開業や能越自動車道開通、NHK連ドラ『まれ』の放映で、能登にも多くの人達が訪れ大変な賑わいがありますが、この盛り上がりを一過性に終わらせることなく、継続できるよう関係の皆さんと協力をしていきたいと思っております。これからも皆さんの温かいご支援ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

石川県議会副議長 西田昭二(3期 46歳)

県議会での主な略歴

H27.4.30 石川県議会第108代副議長に就任

H26年 県議会 環境農林建設委員会 委員長

H25年 " 商工労働公安委員会 委員長

" 政策調査会検討委員会座長

H24年 " 環境農林建設常任委員会 委員長

H23年 " 厚生労働委員会 委員長

〒926-0173 七尾市石崎町ソ部5

TEL & FAX 0767-62-2525

メールアドレス nanao.policy@yahoo.co.jp

Facebook で日々の活動を配信しています

プロフィール

- ・1969年七尾市石崎町生まれ
- ・七尾商業高校、愛知学院大学商学部卒
- ・卒業後、地元七尾出身瓦力代議士の秘書として10年間経験
- ・2001年10月七尾市議会議員選挙にて32歳で初当選(通算3期)
- ・2007年4月石川県議会議員選挙にて37歳で初当選(現在3期目)
- ・自由民主党石川県支部連合会 青年局長・政務調査会長代理を歴任
- ・教員免許取得 ・相撲4段
- 【家族構成】妻・二女(中2・小6)

初心を忘れることなく！ 3月議会一般質問

県議会初当選から3月議会で32回目の県議会定例会が行われ、これまで初回からずっと一般質問や委員会での質問を続けています。細かな質問もありましたが『地元七尾を大切に』との思いであり、能登の県議会議員として県との『つなぎ役』に徹する思いは今も変わりません。以下は、3月議会における私の質問と執行部の答弁の趣旨です。

首都圏での観光誘客について【平成27年 3月議会にて】

《質問要旨》 本年1月のふるさと祭り東京で、石崎奉燈祭が出演することから 私も地元の担ぎ手200人と一緒に奉燈を担ぐために参加。来場者の方から、「新幹線で能登へ行き、本物の祭りを見に行く」との声を聞き、十分なPR効果があったと感じているが、県ではどのような評価しているのかを伺う

《知事答弁》 食と祭りをテーマとして首都圏では最大級の集客を誇るイベントである『ふるさと祭り東京』では過去最高の約42万人が来場、H23年から5年連続で参加。新幹線開業直前となる本年は例年の販売ブースに加え、北陸三県で大型イベントスペースを確保し、百万石の鰯や加賀、能登、金沢の特産品を販売ほか、観光魅力と新幹線開業を一体的にPR。本年は石崎奉燈祭を祭りのメインとして、地元の担ぎ手200人によって勇壮に乱舞、首都圏の方々に能登の祭りの魅力を大いにアピールできた。今回の出展を開業前の魅力発信の総仕上げと位置づけ、最大規模の取り組みとしたところ、個人向けのフリープランの現在の予約状況が前年同期比で3倍近くになっているといった成果に繋がっていると考えており、今後の誘客拡大にも大きく寄与すると理解している。



H27.1.ふるさとの祭りin東京(七尾市広報)

能登の農林水産業の取り組みについて【平成27年 3月議会にて】

《質問要旨》 特産品の生産から加工、販売、消費まで県内の関係者が連携した生産拡大や利用拡大に向けての取組み、おもてなしの食材の生産体制とブランド化への取組みについて伺う



能登ふぐ

H26.11.21北國新聞

能登なまこ加工組合



青なまこ



赤なまこ

《知事答弁》 農業者の収益性向上のためには作ったものを売るのではなく売れる商品づくりが不可欠。首都圏では、こだわりの食材を用いた商品開発に力を入れており、本県の量は少ないが特色のある品質の高い農産物が多いということが今強みとなる。収益性の高い農業経営を実現のため製造業との連携を行っているが、今後さらに県産食材の付加価値向上の観点から新たに流通産業とも連携をした取り組みに着手。年度内に認定する未来につなげる「能登」の一品などの特色ある県産食材を活用し県内生産者と三越伊勢丹が連携したプレミアム商品づくりに取組む。今後とも本県の多品種小ロットという特徴を生かし、売れるものをつくる産業への転換を加速させ、特色ある県産食材のブランド化に磨きをかけ付加価値向上へのさらなる高みを目指し本県農業の収益性向上にさらに努力をしてまいりたい

【平成 27年 3月議会】その他の一般質問

- ◎新幹線開業後の2～3年後を見据えた観光対策を
- ◎七尾線の活性化・利用促進対策について
- ◎いしかわ百万石物語・江戸本店の新幹線開業後の取組みについて
- ◎食の魅力発信と能登牛やトリガイ等の農林水産業のブランド化の取組みについて
- ◎能登ヒバの利用促進と林業振興で地域活性化を
- ◎緊急搬送に伴う生存率向上と救急救命体制の充実強化について

「関西にも目を向けよ」 「長野と連携が効果的」

県議会2月定例会は3日、本会議を再開し、6氏が一般質問した。北陸新幹線金沢開業を目前に控え、誘客に関して関西への働き掛けを強めるよう促したり、長野県との連携を求めるなど課題を指摘する発言が相次いだ。

県議会一般質問

「関西にとって3月14日は恐ろしい日。昔からの幼なじみの恋人（北陸）が、新しい人（首都圏）に取られていく気がする」

の新幹線延伸に向けても関西との連携強化が必要になると強調した。

西田昭二氏（自民）は、

トリガイ養殖の状況は

西田昭二氏

（自民）

（トリガイ）養殖やブランド化の取り組み状況を聞く。

堀畑農林水産部長 今年度、

県が出荷した種苗により、七尾湾の4地区で本格的に養殖が始まった。今年春から夏にかけて、約1万個の出荷を見込んでい



「七尾城」アクセス道路の県道城山線の整備方針は、
常田土木部長 12力所の整備

農林水産部長 今年以降に1万個出荷

新幹線開業で長野県との時間距離が短縮されるとし、「首都圏や関西圏からの誘客においては、石川、長野両県の魅力を組み合わせて、相互に連携していくことが効果的だ」と語った。これに対し、谷本正憲知事はオーストラリアのシドニーで5月に開催されるスキー博に、長野県と連携して出展すると明らかにした。

H27.3.4 中日新聞

無風でも一寸先は…

○…七尾市選挙区の西田氏は、質問の冒頭に県選情勢に触れ「能登は無風状態と言われ、激戦区の同志の皆さんから『うらやましい』とか、『能登から出たい』との本音も聞える」と切り出した。すかさず議場から「ふたを開けてみないと分からんぞこのやじが飛び、西田氏も『選挙は一寸先は何とやら。最後まで気を抜かず全力で戦います』と表情を引き締めた。やじの主は能登選出のベテランの自民県議で、同じく「無風」であるだけに、緩みをいさめる言葉が思わず口をついたよう。（中）

H27.3.4 北國新聞

新聞記事あれこれ

H27.3.4 北國新聞

百八人目の副議長に選ばれた西田昭二氏。傍聴席から四月二十五日に死去した母照子さん（享年70）の遺影が見守った。

母に感謝

二十九日に葬儀を終えたばかりの西田氏は就任あいさつで母への思いも語り、感謝を伝えた。閉会後の取材に「本当は母に見てもらいたかった。感謝の気持ちで副議長職務を遂げていく」と話した。

H27.5.1 北國新聞



雄さんは「口に出すことは少なかつたけど、母は昭二を誇りに思っていた」と振り返り、早苗さんとともに「あちらで喜んでいと思う」と照子さんへの思いを話した。（藤）

H27.5.1 中日新聞

亡き母に感謝

○…傍聴席では、西田氏の妻早苗さん、兄幸雄さんが、25日に71歳で亡くなった母照子さんの遺影とともに副議長選出を見届けた。西田氏の質問は毎回傍聴していたという照子さんは、県議選直後の16日に倒れ、息子の晴れ舞台を見ることなく亡くなった。29日の葬儀では、副議長就任の見通しとなったことを報じた新聞記事の切り抜きを棺に入れて送り出されたという。

「副議長という大変に重い役職を頂き、緊張の連続です。しっかりと中村（勲）議長を補佐しながら円滑な議会運営、県政の発展に努めた」と抱負を語るのは、第108代県議会副議長に就任した西田昭二氏。

副議長に就任する直前の4月25日に母・照子さんが71歳で他界。「自民党からの副議長推薦の日が通夜で、翌日が葬儀、その次の日の本会議で副議長に選任いただいた。

そばに居てあげられずに申し訳なかったが、母ならばそちらを優先しなさい、と言ってくれただろう。議場のどこかで晴れ姿を見てくれたのではないか。ここまですべてもらって感謝している」と感慨深げ。

元来の世話好きが講じて政治の道に入るが、議員（七尾市議会）になる前は防衛庁長官や建設大臣などを歴任した故・瓦力衆議院議員の地元秘書を10年間務めた。

「瓦先生は情に厚い方で、中村議長に通じるところがある。防衛庁長官時代のなだしお事件（1988年7月に潜水艦なだしおと遊漁船が衝突し遊漁船の30人が死亡した事故）の際には、ご遺族宅を一軒一軒お詫びにまわり、

区切りがついた時点で引責辞任されたと能登町は現在の半分以下に減少するとの試算が出た。「数字の上では衝撃的だが、能登に住む人間としてそれをそのまま鵜呑みにするわけにはいかない。少しでもあらがうのが我々の役目。NHK連続テレビ小説「まれ」のように、風光明媚な自然環境、キリコ祭りといった伝統文化を宝探してはならないが地域の皆さんと

13年3月に国立社会保障・人口問題研究所がまとめた将来推計人口によると、2040（平成52）年には石川県の人口は100万人を割り込み、97万4000人に、特に珠洲市

と能登町は現在の半分以下に減少するとの試算が出た。「数字の上では衝撃的だが、能登に住む人間としてそれをそのまま鵜呑みにするわけにはいかない。少しでもあらがうのが我々の役目。NHK連続テレビ小説「まれ」のように、風光明媚な自然環境、キリコ祭りといった伝統文化を宝探してはならないが地域の皆さんと

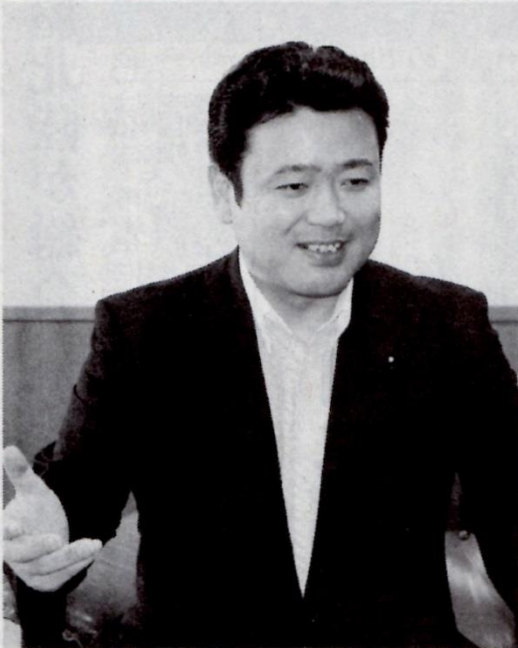
掘り当て、次世代へ残していきたい」と語る。過疎対策、地方創生に向けて北陸新幹線にかける期待は大きい。「のと里山海道を4車線化すれば開業効果が拡大するし、能登から金沢への通勤が可能となり企業進出にもつながる。また、金沢外環状道路海側幹線や加賀や福井県の発展に結びつく新幹線延伸、白山駅の実現もある。加えて地元としては七尾港の利活用にも力を入れない」と意気込む。

幼少期から始めた相撲は七尾市議会議員時代の36歳まで続けた。地元力士が活躍する大相撲に触れると「遠藤は立ち会いから、まわしきばき、四股の踏み方にいたるまで完成度が高い」、「輝は発展途上。身長もあり、まだ、20歳と若いので今の地位でしっかりと経験を語ってほしい」と滑らかに語る口調は経験者ならではの。

にしだ・しょうじ 七尾市石崎町生まれの46歳。愛知学院大学商学部卒。01年10月から07年3月まで七尾市議、07年4月から県議を務め現在3期目。これまでに厚生文教委員会委員長、環境農林建設委員会委員長、商工労働公安委員会委員長などを歴任。好きな言葉は「滅私奉公」という。

「魅力掘り当て過疎に歯止め」

新幹線開業効果を県全域へ



第108代県議会副議長
西田 昭二 氏